

古代日本の真実（聖徳太子・推古天皇靈）（2021年5月10日収録）担当：石田昭 2021年7月31日

- 1 聖徳太子の靈言：中国と対等な関係を、明治維新でもできなかった近代的視野が入っていた。大化の改新で仏教路線が神道路線に逆戻りしたので、聖武天皇・光明皇后で再復活。
- 2 イエスの話は伝わっていた、厩戸皇子の名はその影響。ギリシャの話も伝わっていた。
- 3 推古天皇は天照の分靈、聖徳太子は釈尊の分靈。前世のヤショーダラには苦労を掛けたので、今世は持ち上げて、補佐してあげますよ・という意味。米国より進んだ近代化路線。
- 4 推古天皇を戴くことで、「宗教の象徴」と「実際の政治」を分ける政教分離を行なってしまったのかもしれない。「三宝を篤く敬え」を憲法に入れたことは画期的なことである。
- 5 当時、和歌（言靈：悟り）では庶民も平等な世界ができていた。世界的に珍しいこと。
- 6 蘇我馬子・蝦夷の代までは仏教護持、入鹿のときに太子一族を誅殺した。権力欲が絡むと政治は難しい。武内宿禰「仏教導入で「エルカンターレ下生」まで繋ぐ計画だった。」日本史の底流？
- 7 大化の改新：中大兄皇子が百済を植民地とし、日本神道攻め込んだ。「鳥居」を朝鮮半島に建設。第二次大戦と同じ神道の失敗。太子の考えとは逆行。仏教伝来の意義を壊す無礼行為？
- 8 持統天皇に「日本書紀」「古事記」を刊行し天御祖神信仰が消された。富士山系王朝が日本の源流。九州王朝52代天皇が大和朝廷初代神武天皇。現代にもあるキャンセル文化横行
- 9 富士山信仰が「天御祖神信仰」に繋がる。神武の靈も天照信仰のほかに天御祖神を造物主として認識していた。天御中主信仰（古事記）国常立尊信仰（日本書紀）も当時はなかった。
- 10 天御祖神の降臨で「ホツマ文字」を使ったのは、古代文字があること、北にも南にも豪族はいたこと、統一されていなかったことを示すため。三内丸山遺跡（5500～4000年前）
- 11 天御祖神の光は中国、インドにも降りた。堯（天照）舜（東郷）周（文王）孔子の復興運動。偉大な王が在位なら「専制政治」の方がよく見える。東洋的中国の理想政治。
- 12 明治維新は一部指導した。太子の政治も明治維新の先取りだが、織田信長も明治維新の先取り。秀吉で神道に戻り、家康で儒教に逆戻り。御祖神・仏教という日本の使命を離れた。
- 13 疫病が流行るときは、政変を望むとき、信仰が生まれるとき、新しい宗教が入る時もある。10年で結構社会は変化する、そのターニングポイントを作る。外国が認めざるを得ない欧米にになかった価値観を入れるのが日本の仕事。世界のリーダーなれる時代を作る。
- 14 中国の時代がくるかどうか、2050年までに決着がつく。中国は民主化されると思う。
- 15 イランは大天狗、高転びする。地球全体の気候変動はあおう。オーディンの時代が明らかになるかも。地球の本当の歴史、地球と宇宙の関係も明らかにしたい。ポールシフト論
- 16 西方浄土の救済仏（阿弥陀）とはイエスのこと、鎌倉の大仏は源平の戦いを弔うため。
- 17 御祖神が富士降臨のとき、天照も一緒に居た。百年かけて基礎を作ろう。総裁補佐は先遣隊として、お出迎えした。百年単位の一回戦は勝利するが、2～10回戦は敗北。HSの大イノベーション。
- 18 推古天皇の靈言：天照、大日靈、光明皇后としても出た。時代を変えるため。仏教国にするために下生した。推古の使命は仏教を取り入れること、政治を聖徳太子に任せること。
- 19 現代に転生する基礎地盤つくり。世界の宗教が集まり、東洋と西洋の交流点とし、維持せよ、という使命があった。総裁補佐の足元でも「蘇我と物部の戦い」を兄弟でしてたかも。
- 20 今、靈界の近代化を行なっている。仏教を根付かせないとエルカンターレの下生は無理だった。主が下生で切る磁場作り、明治以降は「西洋近代化路線」との融合を学習。敗戦は神道路線が強過ぎた。神産巣日神靈言：天照と天御中主体制に搖れ、豪族的信仰に偏ったのか？
- 21 あとがき：有色人種唯一のG7入り、太子時代に日本の国体：釈尊と天照大神の融合体。